

施策評価シート （評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	2 配偶者からの暴力の防止と被害者の保護	② 施策番号	1512
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	2 男女がともに個人として尊重され、自由な活動ができるまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 あらゆる暴力の根絶		
⑥ 担当部名 総合政策部	⑦ 担当課名 人権推進課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	市民
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	DV被害者の生命の安全確保及びDVに対する理解促進により、あらゆる暴力の根絶を図る。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	配偶者からの暴力は増加傾向にあり、市町村においても配偶者暴力相談支援センターの設置が求められている。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① DV被害者一時保護件数 計算式	件	DV被害者の安全確保数により、事業の実効を量る。
② DV防止連絡会参加者数 計算式	%	関係団体の連携を深めることにより、緊急時の対応を速やかに行える。
③ 計算式		

指標名	単位		H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
① DV被害者一時保護件数	件	目標値	—	—	—	—	—	
		実績値	2	2	1	—	—	
		達成率						
② DV防止連絡会参加者数	%	目標値	28	18	20	20	20	
		実績値	25	15	20	—	—	
		達成率	89.3%	83.3%	100.0%			
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価	今後の方向性	
1	配偶者からの暴力相談・防止事業	DV被害者一時保護件数	件	2	1	—	1,222	1,160	1,207	A	ア	◎
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						1,222	1,160	1,207			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	配偶者からの暴力に関する相談や関係機関との連携は、被害者の不安解消や緊急的な安全確保につながり、暴力根絶に寄与する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	一時保護件数は少ないが、被害者の安全確保のため必要な施策である。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	現状では適切と考える。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	現状では適切と考える。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	—

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	B	DV事案については、緊急対応を要する場合があるため、関係機関との連携強化が必要である。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	DV防止連絡会の活用により、関係機関等との連携を継続する。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	—
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	—

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	B	DV被害に対する一時保護や連絡会を通じて対応が適切に実施されている。 引き続き関係機関との連携強化を進め、暴力の防止と被害者保護に向けた取組を進められたい。	